関　議　第　１７９　号
令 和 元 年 ９ 月 ３ 日

関川村長　　加　藤　　弘　様

関川村議会議長　渡　邉　　秀　雄

令和元年関川村議会９月（第７回）定例会議一般質問について

　来る９月 12 日招集予定の本村定例村議会において、別紙のとおり質問される予定ですのであらかじめ通知します。

記

別紙のとおり

順　　次１	質 問 者　　伝　信男	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
スキー場は今年やるのかと、心配している声が出ているなか、わかぶな高原スキー場に対して村の今後の対応について質問する。 4 月に開催された全員協議会で、村長からわかぶな高原スキー場の現在の経営状況についての説明があり、村はわかぶな高原スキー場への支援はしないとの話があった。 その後 2・3・4 月分の電気料金を、本来であればシーズン中はわかぶな高原スキー場が支払うと約束していたが、支払が滞ったため、電力会社との契約者が村であるとのことで支払いをした。 また、わかぶな高原スキー場はオープンから 30 年が経過しており、老朽化している設備もある。 このような状況のなかシーズンへ向けての準備時期が迫っている。 このことを踏まえ、次の質問をする。 １、今後、村はどのような形でわかぶな高原スキー場と関わっていくのか。 ２、電力会社との契約を村ではなく、わかぶな高原スキー場に変更できないのか。 ３、設備の老朽化での安全面が心配されるが、わかぶな高原スキー場の所有者として、村はどのように考えているのか。		村　長 村　長

順　　次２	質 問 者　　平田　　広	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
農業振興にもっと強力に支援を 　農業振興については、今年の 3 月定例会議でも一般質問をしたが、再度質問する。 　承知のように村の基幹産業は農業である。関川村は昭和 42 年の羽越水害で全村的に大きな被害を被った。村の農地の６～７割位が被災し、１～２反田程度に復旧区画整理され、災害前に比べれば区画は大きく整備されたところであるが、災害復旧は原形復旧が原則であり、農地の集積などは行われなかった。 　その後、被害にあわなかった農地は国・県の補助事業を活用し、順次 2 反田位に整備が進められた。しかし、機械化農業の時世柄、現況では区割りも小さく、自作地も転々とし集積もされていないため、作業ロスが多く収入も少ないのが現状である。 　以上のことから、担い手の減少や高齢化などから、先人から受け継がれ育んできた農地も守れない状況になっているということを強く感じている。 　これから厳しい競争の中で農業を守り、子孫に引き継いで安定した農業を営んで行くためにも、大区画整理と農地の集積は必要不可欠である。そこで、次のことを尊重に伺う。 　①村の農業・農地に対する現状をどのように感じているか。 　②今後の関川村の農業をどのように導くつもりか。 　③今、圃場整備を希望している地区、面積はどのくらいか。 　④村の負担も大きいが、支援の考えは。 　道の駅並びに周辺の再整備について 　今年度予算には農産物直売所「あいさい市」の販売スペース拡大に 300 万円とリニューアル計画の策定に 500 万円が計上されている。これらの進捗状況とリニューアルの主なポイントを伺う。 　また、「郷倉」についての村長の考えを伺う。一等地にあって多少の歴史的価値もあるという事から、以前には様々なところで話題や議論になってきた施設だが、土地・施設の活用等、村長はどのように考えているか。		村長

順　　次３	質 問 者　　小澤　仁	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
１　令和元年度の当初予算に計上されている、道の駅周辺整備事業計画策定業務委託料の５，０００千円について 平成３１年度予算の説明時には、「具体的なグランドデザインは決まってなく今後色々な意見を集約しながら詰めて行く。」との説明だった。年度の半分が経過しょうとする中、次の事項を伺う。 ①　現在の進行状況と、計画の完成時期は。 ②　道の駅の中で集客の核となる「旬彩ダイニングアチェーロ」、８月まで事業者がきまらず、関川村自然環境管理公社で運営されていたが、今までの経過と今後の見通しは。 ２　少子高齢、人口減少化社会と言われて久しくなる中、高齢者ドライバーの事故のニュース等が毎日の様に流れ村民の中にも不安が高まっていると思われる。 昨今、運転免許証を返納する村民も増え、過去３年間の統計でも平成 29 年 17 人、平成 30 年 14 人となっており、今年令和１年 6 月末現在で 8 人となっている。 高齢者の独居世帯、夫婦２人世帯が増える中、又、同居世帯でも若い家族は日中勤めに出て不在のため移動が困難な人、もしくは将来的に困難になる村民も少なくないと思われる。村の第６次総合計画の第１章、村の将来像、１節、村の将来の姿として「豊で住みよい活気のある村」を目標としますとある。現状を考えたとき、医者に行く、買い物に行く、金融機関に行く、役場に行く。 色々な場面で移動に困っているもしくは、将来に不安がある、今の状態は「豊で住みよい活気のある村」には程遠いのではと感じてしまう。 関川村が自立の村である以上、村独自の交通体系を整えることが急務であると考える。村長の考えを伺う。		村　長

順　　次４	質 問 者　　加藤　和泰	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
○交流人口、関係人口増加への取り組みについて 　関川村の人口が減少していく中、観光に来る「交流人口」、多様な関わりをもち、関川村の応援団となっていただけるような「関係人口」増加への取り組みが重要と考える。 　加藤村長の本年度の施政方針の中で、「これまで進めてきた交流人口、関係人口増加の取り組みをさらに深化させ、継続していきたい」とのことであった。 　そこで、下記の 2 団体との現在の関わりと今後その関係をさらに深化させていくような取り組みを検討する考えが無いか問う。 　　①いで湯の関川ふるさと会 　　②関川村人会		村長

順　　次５	質 問 者　　髙橋　正之	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
１ 点目は、お盆前に鷹ノ巣の観光地に於いて痛ましい事故が発生した。防護柵の不良整備が問題視されると考えている。村長としては、防護柵の設置の考えはあるのか伺う。 ２ 点目は、最近高齢者による交通事故が多発し、テレビ・新聞などで取り上げられて問題になっている。高齢者の免許証返上が増えていると聞いている。そこで、高齢者でも誰でも利用できるような、デマンドサービスの様な整備が必要考えるが村長の見解を伺う。		村長

順　　次６	質 問 者　　伊藤　敏哉	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
○村人口ビジョンの達成状況について 　村が平成 27 年度に策定・公表した「関川村人口ビジョン」の達成状況について伺う。 　当ビジョンは、2016～2025 年（平成 28～令和 7 年度）の 10 年間を対象に策定された「第 6 次関川村総合計画」と合わせて策定された。 　2015 年の国勢調査での「5,835 人」が国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の 2060 年には「2,258 人」まで減少するという推計に対して、施策を総動員して 3,400 人台を維持するための計画である。 　この数字が公表されたとき、多くの村民が村の人口が 3 千人台になることへの驚きと不安を感じたところである。 　当ビジョンでは３つの柱として、 　①安心して子どもを産み、育てられる環境の整備【合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）を上昇させる】。 　②若い世代に選ばれる村づくり（人口の流入促進と流出抑制）。 　③観光や都市部との積極的な交流（交流人口の拡大をめざす）を掲げ、人口減少対策に取り組む。 　としている。 　今回は、①の「安心して子どもを産み、育てられる環境の整備」の部分について伺う。当ビジョンでは、国が示す「2020 年に出生率 1.60」に対し、村は「1.80」をめざし、国の「2040 年に 2.07 を達成」に対し、村は「2.20」を目指すとしている。 　2020 年を来年にひかえ、村の出生率目標「1.80」の達成の見込みについての見解と、人口ビジョン公表から今日までの出生率向上に向けた取組みの実績について伺う。		村長

順　　次７	質 問 者　　鈴木　紀夫	答弁を求める者
質 問 事 項 及 び 質 問 の 要 旨		
○村農政の今後の方向性について 　女川地区の経営体育成基盤整備事業が平成29年から始まり、今年で3年目となる。令和3年に完了を予定しており、最終事業費65億円の事業規模となっている。 　今後、大島沢田地区、両関、四ヶ字地区、小川鮎谷地区から今後基盤整備を行いたいとの声が上がってきている。次世代を思うと今、対応していかなければならないと考える。 　そこで、 　①国の施策として土地集約事業を進めている今を好機と捉え、他の地区でも基盤整備を速やかに推進するべきと考えるが。 　②基盤整備の推進には村行政が中心となり対応していかなければならないと考えるが。 　村長の考えを伺う。		村長